

上田バロン

多方面で活躍する先進イラストレーターが語る ツールとしてのAdobe® Illustrator®

新機能への取り組みと作品性の維持



イラストレーター 上田バロン氏

上田バロン氏の描くイラストレーションは、時にクールで時にキュートだ。アメリカンコミックのテイストを融合させた独特のイラストレーションからは他の追随を許さない確固たる世界観を感じることができる。イラスト界の第一線で活躍する上田バロン氏に、新しいIllustratorの可能性とイラストへの取り組みを伺った。



全国高等学校体育連盟ラグビー専門部の公式キャラクターデザインを担当している



Baron氏の自宅兼作業場。これまでに描いたイラストや制作中のラフ画などがところせましと飾られている



書籍の装丁からキャラクターデザインまで、 Baron氏が活動するフィールドは広い



8月9日から始まる企画展“feu”用に書き起こしたオリジナルイラストレーション。企画展では、複数のアーティストが“火”をテーマとして作品を展示する予定だ。 Baron氏は、憤怒する女性を描くことで火の裏テーマとしている。 Illustrator CS5からサポートされた線幅ツールによって、これまで単一だったキャラクターのラインに強弱が含まれていることがわかる

Illustratorとの出会い

今では Adobe Illustratoor を自在に使いこなし、緻密なイラストレーションを描く Baron 氏だが、氏と Illustrator の付き合いは長い。

「初めて Illustrator に出会ったのは専門学校の頃でした。学校には音楽科やゲームデザインなど、いくつかのコースがあったのですが、当時は Illustrator を使ってイラストを描くことをまったく考えていなかったのでグラフィックデザインのコースを選び、そこでデザインの基礎を学び、ビジュアル制作や 3D ソフトを使い様々な表現を試していました。そこではとくに Illustrator を使い込んでいたわけではなく、3D で使うテクスチャを描くときなどに使う程度でしたね。」

専門学校を卒業したのち、ディスプレイデザインの会社に就職することになった Baron 氏は、パッケージの展開図など、主にデザイン業務として Illustrator を使うことになる。

「当時はまだマッキントッシュを使って製図を描ける人間が少なかったので、会社の中でも重宝がられました。ミリ単位での精密な図も描ければ、綺麗なフォントも自由に出力できる Illsutrator って、奥の深いソフトなんだなあって実感しました。」

入社当時、まだ社内に 2 台しかないマッキントッシュはいつも奪い合いだったそうだが、仕事をしながら Illustrator の基礎をみっちりと学んだそうだ。そして、順調に仕事をこなすうちに三年が経過し、次のステップを意識するようになった Baron 氏は、デザイン会社の退職を決意する。

「音楽が好きなので、以前から音楽に近い部分で仕事がしたいと思っていました。しかし、会社からは慰留を求められ、退社するギリギリまで会社の仕事をしていたので、次の就職先を見つけることができなかったんです。」

そんな Baron 氏が世に出るきっかけとなったのが、ラジオ放送局 FM802 が主催する「digmeout」プロジェクトだ。関西エリアでは絶大な人気を誇るラジオ放送局である FM802 では、新人アーティスト発掘のためのオーディションを開催している。ここで入選し、アーティストとしてのデビューを飾る人も多い。残念ながら、 Baron 氏はオーディションには落選したものの、これまでの活動を認められ、同局の番組におけるイメージキャラクターの制作やアートディレクションの仕事をお願いようになった。イラストレーター “上田 Baron” はこうして誕生した。

新機能によってイラストを変えるのではなく

自分のやりたいことに対して新機能をうまく利用すればいい

イラストレーター 上田 Baron 氏

作品性を維持しながら新しい機能を取り入れる

Baron 氏の作品は背景や服装のデザインなど、緻密な部分も含めて、すべて Illustrator を利用して描かれている。そこには線に対する Baron 氏のこだわりがある。

「パスで線を描くって、他のソフトにはない Illustrator だけの良さですね。ペジェを使えばあらゆる線が描ける。少ないポイントで如何に美しいラインを引くかということを常に心がけて描いています。」

ペジェの使い方で自分らしさを表現したいと Baron 氏は語る。実際に Baron 氏の作品を見ると、綿密なイラストレーションであってもポイントの数が少なく、シンプルなオブジェクト構成になっていることがわかる。

そんな Baron 氏に最新版である Illustrator CS5 について感想を聞いてみたところ、新機能の中でもとくに線幅ツールが気に入っているという。

「これまでペンツールでは、単一の太さでしか線を描くことができなかった。筆のタッチを再現するには大変な労力が必要だったわけですが、簡単にできるようになったことで、イラストの中でも使ってみたくて思いましたね。」

これまでも、いくつかのバージョンアップを経験してきた Baron 氏だが、新機能にはあまり興味が沸かなかったそうだ。しかし、今回のバージョンアップでは、点線の角を揃えやすくなったことなど、地味だが必要な部分での機能アップが計られたことで、より完成度が増したと感じたという。

「筆の角度をシミュレートできる絵筆ツールも面白そうですね。ペンタブレットを併用して作品の中にぼやけたソフトなタッチを加えると、これまでにないタッチができそうです。」

シンプルなラインで表現してきたこれまでのイラストと大きく変わってしまいそうだが、新機能とイラストレーションの作品性の関係について Baron 氏は次のように語る。

「新機能によってイラストが変わるのではなく、自分のやりたいことに対して新機能をうまく利用する。ソフトウェアに使われるのではなく、ソフトウェアを使いこなしてこそ、自分のオリジナリティが生きてくるのだと思います。」

今後、Illustrator がどのように進化していこうとも、自分の作品性を維持しつつ Illustrator の新しい機能を使って、作品の幅を広げていければいいと語ってくれた。

人物データ

上田 Baron
大阪府大阪市
<http://www.frlamonger.com/>

チャレンジ

機能が向上した絵筆ツールを使い、これまでになかったタッチの開拓を目指す

ベネフィット

ペンタブレットを併用してショートカットキーなどのオペレーションを一元化させた

Tool Kit

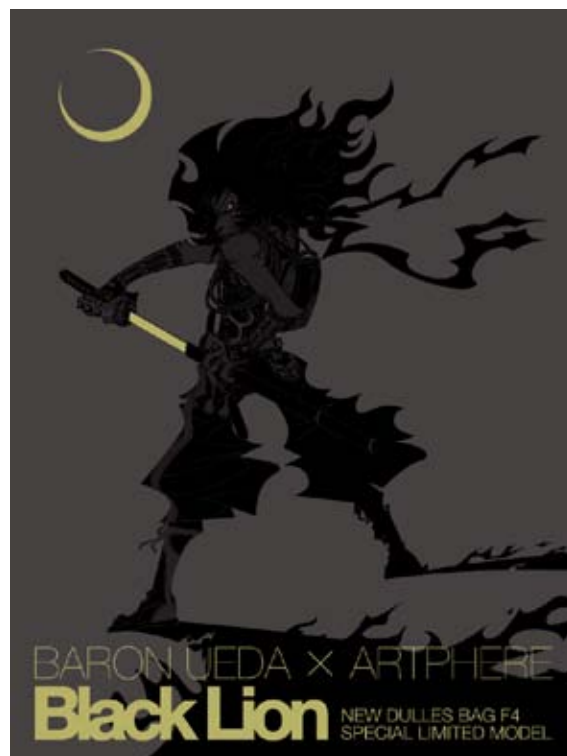
- Adobe® Illustrator®
- Adobe® Creative Suite® 5 Design Premium



ワコムの最新ペンタブレットintuos 4を使って作業をするバロン氏コードレスとなったことで、ますます作業がしやすくなったという



バッグブランド“ARTPHERE”から発売されたバロン氏オリジナルデザインのBlack Lion 忍者からインスパイヤしたキャラクターを組み込んだクールなバッグ



バッグデザインをはじめプロモーションアニメや立体などに展開されたBlack Lionのイラスト

ペンタブレットを利用して作業効率アップ

イラストの仕事が頻繁に入るようになると、やはり気がかりとなるのが作業時間だ。すべての仕事を自分一人でこなさなければならないイラストレーターならではの悩みでもある。現在、バロン氏はマウスとペンタブレットを併用して描画を行っているが、その背景には作業時間を短縮させる狙いがあった。

「プロになる以前にもペンタブレットを使ったことはあるものの、ペイントソフトで使うくらいで、仕事で使う機会ってあまりありませんでした。しかし、仕事が忙しくなってくると作業スピードを上げる必要が出てきて、ワコムの intuos® 3 を購入してみたんです。」

実際に絵を描く作業はマウスを使わなければならないが、手のひらツールを使って描画エリアを移動させたり、虫めがねツールでの部分拡大など、これまでキーボードとマウスで行っていた動作をペンタブレットならすべて集約できることがわかった。

ペンタブレットを使うことで、見えない部分での作業効率が向上したことが大きかったそうだ。

現在では Bluetooth に対応した intuos® 4 を使用し、絶妙なオペレーティングで作業を進めている。

海外進出の夢

大阪に拠点を置きながら東京とのビジネスを継続して7年目というバロン氏は、NHKの人形劇でキャラクターデザインを担当するなど、メジャーの仲間入りを果たしたバロン氏だが、今後はどのようなビジョンを抱えているのだろうか。

「自分の中で昔から、ブラックミュージックに対するリスペクトといいますが、自分自身の活動と共感していて、絵を通じて海外へも進出したい夢があります。」

と語るバロン氏だが、すでに海外の仕事をいくつかこなしている。Google Chromeのアーティストテーマを描く仕事では、ブラジルからファンレターが届くなど、絵を通じてコミュニケーションが広がり、自分の作品のファンがこんな遠い国でも楽しんでもらえることが励みになったそうだ。

「アクの強いイラストなので、仕事に結びつくまでが難しかったこともありましたが、自分で自分の絵を使いこなしてやろうという気持ちの方が強かった。自分の作品性を維持しつつもクライアントの人達とコミュニケーションを楽しみながら作品を仕上げたいと思っています。」

海外のメディアで上田バロンのイラストレーションが見られる日もそう遠くないだろう。今後のバロン氏の活躍に期待だ。

企画展「feu」のご案内

関西を拠点に活動する同世代の6人のイラストレーターが、火をテーマに6人6様の表現をします。ぜひ会場へ足を運びください。

日程：8月9日（月）～8月19日（木）
8/13、14、15日は休み（土日定休）
時間：9:00～17:00
会場：ペーパーボイス大阪
大阪市中央区南船場2-3-23
連絡先：06-6262-0902